

# 別海町郷土資料館だより

No.76・2006・11

歴史語る 資料たち 16

～ 別海外五ヶ村戸長役場管内第一回国勢調査記念写真～



今年2005年は、5年に1度の国勢調査の年でした。国勢調査は「日本国内の人口、世帯、就業者からみた産業構造などの状況を地域別に明らかにする統計を得るために行われる」もので、1920（大正9）年に始まりました。既に1902（明治35）年に「国勢調査ニ関スル法律」が公布されていたものの、日露戦争、第一次世界大戦のために2度延期され、ようやくその18年後に実施されるに至りました。

上の写真は、その第1回国勢調査を記念して1920（大正9）年10月1日に撮影された記念写真です。「別海外五ヶ村戸長役場」とは、野付郡別海村（933人）、同郡平糸村（837人）、同郡野付村（0人）、根室郡走古丹村（89人）、同郡厚別村（311人）、同郡西別村（6人）（以上括弧内はこの写真が撮影された大正9年時点の各村の人口で、合計2,176人）を管轄していた役所のことです。1923（大正12）年の戸長役場制度の全廃と二級町村制の導入によって別海村となり、根室郡とされていた三村もすべて野付郡に統一されました。

当時の戸長役場前（現在の本別海）で撮影したと思われるこの写真には、戸長の大山久五郎（下段右から5番目。のち初代別海村長）、各村の総代人や有力者たち（別海村の寺井金五郎、千田彦蔵、厚別村の山崎藤次郎、林三吉、平糸村の小沢七十郎など）が和装、洋装、軍服と、当時の時代を反映した服装をして写っています。

誰が実際に国勢調査を行ったのかは不明ですが、当時総代人で後に村会議員となる土谷旗八郎（写真下段一番右）が1920（大正9）年7月20日に「国勢調査員を命ぜらる」と記していることから、この写真に写っている各村の顔役たちがこの任務に当たったのではないかと考えられます。（文中敬称略、文責 戸田博史）

## 参考文献・サイト

総務省統計局 「国勢調査の歩み」 (<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/kouhou/ala/a11.htm>)

『別海町百年史』（1978年）、531-584頁。 / 土谷旗八郎『回顧録』（食卓発行所、1951年）

※上掲写真は、『別海町百年史』編纂時資料（当館所蔵）より。

# 「加賀家文書」の調査研究から～その20

調査員 戸田 峯雄

## 1 まとめと考察（課題など）

「加賀家文書」の「喜多野様井上様竹内様御取扱日記」の「喜多野様」は、当時 釧路（クスリ）厚岸（アツケシ）根室（子モロ）地方を治めていた支庁長（調役）にあたる方で（「アツケシの殿様」と呼ばれていた）、厚岸の役所に勤めていた。「井上様」は、やはり当時は、箱館の奉行所に勤める副知事（組頭）であった。「竹内様」は、箱館奉行（知事）の一人であった。

これらの三方が、この「取扱日記」に登場する場面を文面からみてみよう。

まず「喜多野様」は、「安政6年6月21日、厚岸の殿様にお付添をして根室の会所元を出帆し、ベツカイ（本別海）に泊まる」。持ち場お見回りのために、根室場所を視察し、標津からは「斜里山道」へ入る（標津～中標津～養老牛～清里峠を越えてどこかへ）。

次に「喜多野様」が登場するのは、7月13日「厚岸の殿様がノツケから出船。ベツカイで昼飯をとり、夕方根室の会所元へお着き」となっている。

次に、「井上様」は7月朔日「御組頭様の御案内がクナシリ（国後）から届く」。3日「お組頭井上元七郎様、並びに佐々木鍬三様上下8人が国後（トマリ）からノツケへ御渡海～」、そして翌日「根室へ」と記されている。

5、6、7、8日は佐々木様・佐伯様とアイヌ、特に仁助との会話などで、井上様の動向は記されていない。9、10、11、12日は「記録なし」となっている。13、14日は厚岸の殿様と仁助の問答だけが記されている。

15日は井上様のお付添で「～ベツカイへ泊まる」。16日「～標津泊り」。17日は歩いたり、馬にのったりしてウエンベツ（植別）へ着き、申し渡をされる。18日は植別を御出立し、崎無異・薫別・忠類・伊茶仁の各場所で申し渡す。

19日、シャリ（斜里）への道を上り、チライワタラへ泊まる。

20日降雨滞在。21日は境のケ子カ（計根別）でお別れし、標津へ下山する。22日から29日までの記録あり（略す）。

8月朔日「麻の上下を着てお礼、アイヌも同じ」（8月朔日を八朔という。徳川家康が江戸城に入城した日なので。）以後、3日から14日までは記録されていない。

15日「御用所で、調役喜多野省吾様、下役金井清三郎様、同心佐伯栄太郎様、同名取儀左衛門様、同加藤金四郎様、支配人善吉様方々がお揃いで、今後麻上下着用のお許しが出る」。

8月24日「竹内下野守お奉行様、御上下33人一行の御先触と御案内書が根室の会所元へ到来」。25日からはお迎え船、船頭、料理人など、御出向かいの支度にかかる。28、29日チライワタラ（止宿所）で内外や道、橋などの手入れ。「シャリを29日御出立の御案内が来る」。

9月朔日「金井様・佐伯様・加藤様他四人がシャリ山道へ。金井様・加藤様はすぐに養老牛へ行く」。2日「御出向かいとして重箱に巻き寿司を持って佐伯様他が計根別まで行った。チラエワタラに5時半頃にお着きになられた。夕食はお膳で全員に差し上げた」。以下次号に続く）

郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ  
11月（■は休館日）

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体（10名以上）240円  
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.76

発行日 平成17年11月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802（FAX 兼）

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

**編集後記** 今年から、トンボの採集を茨散沼や兼金沼で行い、19種を標本にしました。蝶と違い、トンボは標本にすると生前の宝石のような美しさがかなり失われてしまいます。そうすると写真の出番なのですが、私の腕とカメラでは飛んでいるトンボはとても無理で、結局捕まえたのを私の指と一緒に撮っています。（戸田博史）